

国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター　ニュースレター　ラグーン
開所25周年記念号

Lagoon

2026．3
No. 23

赤いイソバナ（撮影日：2025．4　場所：石西礁湖）

はじめに

国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター（通称「サンゴセンター」）は、令和７(2025)年に開所から25周年を迎えました。これまで、地域や関係者の皆様、そして御来館いただいた多くの方々の温かい御支援と御協力に支えられ、活動を続けてくることができました。心より感謝申し上げます。

今回、ニュースレター「Lagoon」は、開所25周年記念号として、サンゴ礁の海と環境の学習教材「サンゴNote」と併せて発行します。本ニュースレターを通じて、サンゴ礁の海と環境への関心を高めて理解を深めていただくとともに、今後、八重山地域や世界のサンゴ礁の海とどのように関わっていくことができるか、御家庭や御友人と話し合う契機にしていただければ幸いです。

のぞいてみよう！サンゴ礁の世界
～サンゴ礁にすむ生き物を紹介します～



メガネゴンベ
ゴンベ科ホシゴンベ属

「海の見張り番」と言われるメガネゴンベ。浅いサンゴ礁域の潮通しが良い枝状サンゴの上で、鷹が上空から獲物を探すようにじっと辺りを見渡している姿から、ゴンベの仲間は英名では　hawk（鷹）fish（魚）と呼ばれています。

メガネをかけているような模様が特徴で、体色は白っぽいものや赤っぽいものなど個体差があり、黒く色彩変異するものもいます。小魚や甲殻類を好んで食べます。よく見ていると、縄張り意識が強い習性が観察されます。他にもゴンベの仲間は、サラサゴンベ、ホシゴンベ、クダゴンベなどが有名です。クダゴンベは体色が赤い格子模様をしており、赤いイソバナ（写真上）に隠れていることがあります。海に潜る際には、ぜひ探してみてください！

サンゴセンターと石西礁湖25年のあゆみ

西 暦	サンゴセンターのできごと	石西礁湖のできごと
2000年	国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター開所	
2001年	石垣自然保護官事務所設置	オニヒトデの増加傾向を確認
2004年	有性生殖法によるサンゴ修復事業を開始	オニヒトデの大発生
2006年	石西礁湖自然再生協議会設立	大型台風13号による攪乱
2007年	石垣島が国立公園に編入、「西表石垣国立公園」となる 石西礁湖自然再生全体構想策定	石西礁湖夏期海水温上昇によるサンゴの大規模白化
2008年	石西礁湖に常時モニタリングブイを設置	オニヒトデの大発生
2009年	石西礁湖自然再生行動指針【陸域対策】発表	
2016年	環境省「サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020」策定 サンゴ大規模白化緊急対策会議	石西礁湖夏期海水温上昇によるサンゴの過去最大の大規模白化 （石西礁湖内、約70%以上のサンゴが死滅）
2017年	パラオ国際サンゴ礁センターとの協力覚書に署名	
2018年	自然再生全体構想「短期目標」の評価 「自然再生全体構想行動計画2019-2023」策定	
2020年	「サンゴ群集修復事業実施計画(2020-2024)」策定	
2022年	環境省「サンゴ礁生態系保全行動計画2022-2030」策定	石西礁湖夏期海水温上昇によるサンゴの大規模白化 （石西礁湖内、約90%以上のサンゴが白化、24%以上が死滅）
2024年	パラオ国際サンゴ礁センターの職員が来島し交流会を開催 「自然再生全体構想行動計画2024-2028」策定	石西礁湖夏期海水温上昇によるサンゴの大規模白化 （石西礁湖内、約80%以上のサンゴが白化、25%以上が死滅）
2025年	国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター25周年	

サンゴセンター25周年イベント「サンゴセンタークイズラリー」開催中！※2026年3月27日(金)まで

サンゴセンターが25周年を迎えたことを記念して、館内にてクイズラリーを開催しています！クイズは児童から大人の方までサンゴについて詳しく知ることができるサンゴセンタークイズ“めざせサンゴ博士”の他、サンゴだけでなく、当センターの取組や石垣島の野生生物などについて幅広く出題した“サンゴセンタークイズ”の２種類を用意しております。皆様の挑戦をぜひお待ちしています！クイズラリーに参加していただいた方には、下記の特製ロゴステッカーをプレゼントしています。



▲サンゴセンターで実施中のクイズラリー

サンゴセンターのロゴマークができました！～pokke104(池城由紀乃)さんがロゴにこめた想い～

この度、沖縄県出身のイラストレーターである、pokke104（池城由紀乃）さんにサンゴセンターのロゴマークをデザインしていただきました。

「このロゴは石垣島の自然と文化を未来へ繋ぐシンボルとしてデザインしました。人の手をユビエダハマサンゴに見立て、全体を手で包み込むような表現と“心”を表すハート型に構成しています。さらに、ミンサーの発祥地・八重山の文化を象徴する『いつ（五つ）の世（四つ）までも、末永く』という意味を持つミンサー柄を組み込みました。そこに未来へと続くサンゴ礁と生き物たちのつながりを重ねています。また、生命の循環を示すピンクの粒で珊瑚の産卵を表し、豊かな海が守られ続けることへの祈りを込めています。」

海の自然教室2025 in 真栄里を開催しました！

2025年８月17日（日）に、石垣島南部の市街地に近い真栄里海岸において、八重山地域に在住する児童・生徒とその保護者12名を対象としてスノーケリングによる海中観察会を開催しました。本行事では、自然とのふれあいを通してサンゴ礁に棲む生き物への興味や関心を高めるとともに、自然環境と私たちの生活とのつながりや環境保全への意識の醸成を目的として毎年、継続して開催しているものです。



▲海の自然教室の集合写真

▼スノーケリングで観察している様子



▼ビンゴカード「生き物を探そう！」



今回は安全管理のために３グループに分かれて、講師と西表石垣国立公園パークボランティアの方々にご協力いただき、安全に楽しく開催することができました。参加者のみなさんからは、「身近な海にも多くの生き物がいてキレイだった！海が好きになった。」との感想をいただきました。今後も石垣島周辺の海に親しむことができる活動を続けていきます。

「石西礁湖及び周辺海域のマリンレジャーにおける持続的海域・海岸利用ガイドライン」作成中

八重山地域では、近年、スノーケリングやスキューバダイビングなどのマリンレジャーの事業者や利用者が限られた場所に集中する過剰な利用、遊泳者によるサンゴの踏み付けなどの不適正な利用によってサンゴ礁生態系への悪影響が心配されています。また、ライフガードや監視員が常駐していない、海水浴場以外の自然海岸の利用者が増加し、迷惑駐車や安全面での問題も顕在化しています。

そこで、石西礁湖自然再生協議会では2025年3月にワーキンググループを立ち上げ、これらの問題に対応するためのガイドラインの作成を進めることになりました。八重山ダイビング協会や幻の島連絡協議会等が事務局となり、石垣市と竹富町のマリンレジャー事業者を中心に、石垣海上保安部、八重山警察署、石垣市消防本部といった安全に関わる機関、沖縄県、石垣市、竹富町などの行政、八重山漁協、石垣市観光交流協会、八重山ビジターズビューローなどの幅広い立場の方にも参加していただき、マリンレジャーを取り巻く現状と課題を整理しました。その上で、安全・環境配慮・地域配慮の３つの視点から、現在、利用者・事業者それぞれが守るべき項目を示したガイドラインの作成を進めています。2026年からは、ワーキンググループで作成したガイドラインの普及啓発や利活用に向けた検討を行っていく予定です。今後の取組にも、ぜひ、ご注目ください。



▲ワーキンググループにおいてマリンレジャー利用に関する現状と課題を議論する様子

企画展「八重山に棲むセミたち」開催！

八重山諸島には 10 種のセミが分布・生息しています。この 10種の中には世界の中でも日本の限られた島にしか生息していない固有種と呼ばれる希少なセミもいます。この企画展を通して、多くの島民や観光客に八重山に生息しているそれぞれのセミの特徴や、平成28(2016) 年以降生息が確認されておらず、現在、最も絶滅の危機に瀕しているセミ“イシガキニイニイ”について、たくさんの人に知ってもらうことができました。



▲離島ターミナルでの開催

6/18~7/2	ユーグレナ石垣港離島ターミナル
7/22~8/2	石垣市新川児童館
8/6~8/19	石垣市役所1階 エレベーターホール
8/22~8/29	国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター


▲新川児童館での開催


▲サンゴセンターでの開催

カンムリワシ交通事故防止活動を行いました！


▲交通事故防止PR活動の集合写真

2026年1月22日(木)に石垣市立川平中学校1・2年生、カンムリワシ・リサーチ、石垣市教育委員会、石垣市、たまよせ動物病院、八重山警察署の皆さんと一緒にカンムリワシの交通事故防止PR及び歩道や道路脇の堆積物の清掃を行いました。今年は活動の前に野生動物ドクターやカンムリワシ・リサーチの方にカンムリワシの生態やカンムリワシの救護についての講話をしていただきました。

※2025年救護件数10件（うち交通事故5件 / 死亡4個体・治療中1個体）

生物多様性セミナー ～与那国島の自然とその重要性～を開催しました

2025年12月20日(土)に与那国島でセミナーを開催しました。九州大学の荒谷邦雄教授による基調講演「琉球列島に分布する希少な甲虫類とヨナグニマルバネクワガタの重要性」の他、与那国町教育委員会や環境省石垣自然保護官事務所による話題提供の後、参加してくださった島民の皆様とゆんたく（意見交換）を行い、参加者全員で与那国島の自然の大切さについて考えました。


▲意見交換会の様子

発行元：国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター（環境省石垣自然保護官事務所）

国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターはサンゴ礁保全や環境保全についての取り組みをされる方はもちろん、どなたでもご利用いただけます。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

▶http://kyushu.env.go.jp/okinawa/coremoc/index.html

ご利用に際しては事前のお申し込みが必要な場合もありますので、下記までご連絡ください。

開館時間 8:30 ～ 17:15
休 館 日 土曜・日曜・祝祭日
利 用 料 無料

〒907-0011沖縄県石垣市八島町2-27
Tel: 0980-82-4902 Fax:0980-82-0279
Email: coremoc@sirius.ocn.ne.jp

Website